

## 院長のひとりごと2

### テーマ「コロナ禍の病院運営2」

今回はまさに独り言、ぼやきとして聞いてください。

職員の皆様、感染防止に尽くしていただきまして誠にありがとうございます。また、患者様におかれましても「持ち込まない・持ち込ませない」という事にご協力をいただき感謝申し上げます。

コロナ禍における二年間の経験からいくつかのことがわかってきました。だいたい感染フェーズが四カ月おきに来到ること。感染はピークの前後二週間が感染期間であり一ヶ月前後で一つのフェーズが終わること。ウイルスが徐々に弱毒化？しており重症化率が減っていること（といっても感染者数が増えれば重症者は増えます）。イギリスでは行動制限が撤廃されること。当初は感染しにくくと言われていた小児の感染が増えたこと、そこから家庭内感染が明らかに増えてきたこと。

当院では二週間前から「職員の外出は禁止」としております。相応の成果は上げていますが家庭内感染が危惧される所ではありません。また、オミクロン株の亜型がヨーロッパで増えておりフェーズ6から連続してフェーズ7に移行する可能性があります。その場合、二月いっぱい感染が続くことになり、万が一そうになったら濃厚接触者の自宅待機などで病院の運営は極めて厳しいものになると思われまます。

コロナ陽性で入院した患者様の看護をしている看護師はマスク、手洗い、フェイスシールドで徹底的に感染防御をしており、そのお陰で感染者を出しておりません。これは、徹底した感染防御こそなせる技なのです。飲みにも行けないどころか食事にも行けない、友達と旅行に行けないどころか親にも会いに行けない、いつまでこの生活が続くのかずっと先が見えない生活が続いておりますがもうあと一歩二歩のところまで来ていると私は思っております。

#### 当院の「感染対策標語」

1. 一人の怠慢が全ての努力を無駄にする
2. 医療従事者は媒介者となりうるがこれを阻止することもできる。

令和四年一月二十五日 藤井 茂

#### 第二十二章

